

1 赤い日



- ① 長田 真作/作
② 汐文社
③ 2500 円
④ E

「お前が聞かんかったら、話すつもりはなかったんじゃがのう。」というじいちゃんが話した空襲の悲惨な体験を聞き、孫の作者は「行って帰って来いよー」の言葉の意味に気付きます。

戦争の記憶や次の世代に語り継ぐことの大切さを教えてくれる作品です。

2 あめあめ ふれふれ



- ① くすのき しげのり/作
酒井 以/絵
② 岩崎書店
③ 1400 円
④ E

主人公の小学2年生のみさとが、急な雨でバス停に「あまやどり」に入ったら、そこには1年生の女の子と3年生の男の子がいました。男の子の呼びかけで、雨がやむようにお祈りしても雨は全然やみませんが……。雨ふりが楽しく思える、心あたたまるお話です。

3 ありんことカンナの花



- ① 毛利 まさみち/切り絵
ナムーラミチヨ/文
② 地平社
③ 1600 円
④ E

ある夏の朝、1発の爆弾で地上のすべてが焼き尽くされました。生き残った地面の中のアリたちが、力を合わせて食べ物を探していると、元気のない花の根っこに出会います。水をかけて助けていると……。爆心地近くに咲いたカンナの実話をもとに、小さな虫たちから見た人間たちの戦争のお話です。

4 おばあちゃんの あおいバラ



- ① 由美村 嬉々/作
森 みどり/絵
② ポプラ社
③ 1500 円
④ E

主人公ゆいのおばあちゃんは、みんなから無理と言われていた「あおいバラ」を咲かせるために、毎日、心をこめてバラのお世話をしていました。そんなある日、おばあちゃんが病気になり……。実話をもとにした、夢をかなえようとするおばあちゃんと、それを応援する孫の物語です。

5 おまわりさんのきゅうじつ



- ① 中川 ひろたか/文
村上 康成/絵
② Gakken
③ 1500 円
④ E

おまわりさん、しょうぼうしさん、えんちょうせんせい、おいしゃさん、ぱんやさん。みんないろいろな仕事をしていてカッコいい。でも、休日には、お仕事の日とは別のことをしているよ。どんなことをしているかな。

身の回りで頑張っている人の休日をのぞいてみたくなる本です。

6 川がパンクしちゃった!



- ① 後 誠介/きかく
黒川 なお/ぶん
吉田 葉子/え
- ② はる書房
- ③ 1700 円
- ④ E

ここ数日降り続いた雨。ふくろうの校長先生が、緊急事態を知らせます。川がパンクして水があふれてきたのです。どうして川がパンクしちゃったのでしょうか。校長先生が、絵をかきながらその理由について説明してくれます。

水害について分かりやすく教えてくれる本です。

7 さいきょうのどろんこきょうだい



- ① キャレン・レヴィス/さく
チャールズ・サントソ/え
いわじょう よしひと/やく
- ② BL 出版
- ③ 1900 円
- ④ E

ぞうのイーニッドに弟が生まれます。だけど、弟はなかなか立ち上がれません。ぞうの世界では、立ち上がって歩けなければ生きていきません。やっと立ち上がった弟。イーニッドはお姉ちゃんとして、弟を見守ることにします。

厳しい自然の中で生きるゾウの姿を知るだけでなく、姉弟の絆が感じられる物語です。

8 ダンゴムシのいる庭



- ① 大野 八生/作
- ② あすなる書房
- ③ 1400 円
- ④ E

一羽の鳥の視点で、ダンゴムシについて紹介していきます。秋の庭。石の下や落ち葉の下にたくさんのダンゴムシがいます。庭の虫たちも食事をしたり、ウンチをしたり……。冬になると、ダンゴムシはどこで過ごしているのかな。

この本を読むと、ダンゴムシのことがくわしく分かります。

9 なつだね



- ① 合田 里美/作・絵
- ② 岩崎書店
- ③ 1700 円
- ④ E

ぬけるような青い空、白い雲、きらきらと輝く波のしずく。

魅力的なイラストとお話で、夏がはじまるワクワクを感じさせてくれます。

なんだか夏へ駆け出したくなる気持ちを感じさせてくれる絵本です。

10 なのはないろのわたしのえ



- ① 佐々木 ひとみ/作
よしむら めぐ/絵
- ② 世界文化社
- ③ 1500 円
- ④ E

参観日、お母さんと一緒に見た思い出の菜の花畑の絵を書いたくみみは、クラスの子たちから笑われてしまいました。帰り道に、もやもやした気持ちがパンとはじけて、思わず大きな声で叫んでしまいます。

あなたの感じた「気持ち」を大切にしてくれる絵本です。

11 ポタポタ ピちゃん！



- ① 中垣 ゆたか/作・絵
- ② 岩崎書店
- ③ 1400 円
- ④ E

ポタポタ、ピチャン……。何の音でしょう？
オノマトペとそれを表すイラストにあふれている一冊です。自然とストーリーがうかぶのが不思議です。

声に出したり、とんだりはねたりせずにはいられないオノマトペ絵本です。

12 やくそく



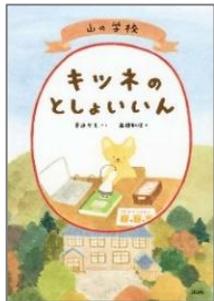
- ① 那須 正幹/さく
武田 美穂/え
- ② ポプラ社
- ③ 1800 円
- ④ E

おばあちゃんはぼくのことを「にいちゃん」と呼ぶけれど、ぼくには弟も妹もない……。

おばあちゃんの兄の洋平さんは1945年8月6日に広島でなくなりました。

戦争を知らない世代へ、広島で被爆した著者が遺した絵本です。

13 山の学校 キツネのとしよいいん



- ① 葦原 かも/さく
高橋 和枝/え
- ② 講談社
- ③ 1500 円
- ④ 917024

お友達の小鳥がいなくなってしまった子ぎつねのリン。「ピツ」というお友達の鳴き声と同じ音が聞こえる方へ行ってみると……。

読むと優しい気持ちになれるお話です。

絵本から次のステップを目指す人へおすすめの一冊です。

14 どろぼうジャンボリ



- ① 阿部 結/作
- ② ほるぷ出版
- ③ 1400 円
- ④ 917025

ごみばこをかぶったどろぼうのジャンボリ。町みんなが眠る夜、ジャンボリはあるものをぬすみ出します。それは、町みんなの手紙。この手紙が町にとって大切な役割を果たします。さて、どんな役割でしょう。

お話の最後は心がほっこりします。

15 あおのいえ



- ① いとう みく/作
丸山 ゆき/絵
- ② 童心社
- ③ 1400 円
- ④ 911025

「あおくんちって、なんかふくざつだね。」
「ふくざつ」の言葉に、あおの心はざわつきます。「おなじように見えるだけで、ほんとうはおなじなんてひとつもないんじゃないかな。」しずさんの言葉から、あおは、みんなと同じに見えることよりも大切なものに気付きます。新しい家族の形を描いた作品です。